

# 『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』 特別版の書誌と出版

岡本 梓

## はじめに

本稿は、昭和十三年（一九三八）に北星堂が出版した英訳日本昔話『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』特別版について、出版に至る背景を明らかにするものである。同書の書誌情報、および一九三〇年代に北星堂が発行した出版目録の記述から、次の三点を指摘する。

- (一) 北星堂が、『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』特別版を日本の伝統的な製本技術と、最新の活字印刷技術とを兼備する書物として出版したこと
- (二) 北星堂は、優れた欧米式の活字印刷技術、ならびに製本技術を自社の特色として打ち出し、欧米諸国に対しても顕示していたこと
- (三) 北星堂による和装本の出版は、昭和六年（一九三一）以降、国際関上で孤立を深める日本の「非常時」を受けて企画されたものであり、日本の伝統的な製本技術を、優れた技術・文化であると示す試みであったこと

『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』特別版は、近世以前に日

本で出版された書物の形態に、欧米式の最新の活字印刷技術を組み合わせせて作成された。北星堂がこのような書物を出版した背景には、昭和六年（一九三一）の満州事変をきっかけに国際社会での孤立を深める中で、欧米諸国に対し、日本が優れた印刷・製本技術を有する文化的国家であることを示そうとする意図があったと考えられる。

## I 『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』概説と書誌

『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』は、昭和十三年（一九三八年）以降、出版社・北星堂から出版された英訳日本昔話である。昭和十三年（一九三八）に全十二編からなる叢書が出版され、昭和十七年（一九四二）には、十二編のうち六編を収録した合本が「Popular Edition（普及版）」として出版された。普及版の出版に伴い、一九三八年に出版された分冊十二編は「Special Edition（特別版）」と称されるようになり、普及版と区別される。以降、本稿においても、一九三八年に出版された分冊版を「特別版」、一九四二年以降に出版された合本を「普及版」と称

し、特別版・普及版を含む『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』総体を北星堂版日本昔話と称する。本章では特別版十二編を取り上げ、その書誌情報を提示する。

特別版十二編のタイトルは次の通りである。なお、タイトルの記載にあたっては、副題を省略し、括弧内に日本語での題名を示す。

- 『Momotarō』(桃太郎)
- 『The Jewel Spring』(玉の井)
- 『The Crab's Revenge』(猿蟹合戦)
- 『The Mirror of Matsuyama』(松山鏡)
- 『The Old Man Who Made Trees to Blossom』(花咲爺)
- 『The Goblin Mountain』(大江山)
- 『The Tongue-cut Sparrow』(舌切雀)
- 『Tawara Toda Hidesato』(俵藤太)
- 『Do Nothing Tarō』(物臭太郎)
- 『The Teakettle of Good Luck』(文福茶釜)
- 『The Story of Kachi-kachi Yama』(かちかち山)
- 『The Old Man with the Wen』(瘤取り)

以下に、特別版十二編の目録を示す。改行箇所は「 」で表す。

## 【目録】

### □ MOMOTARO

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四つ目綴

表紙：原装 別表紙 砥粉色の雲龍紙に銀砂子 赤朽葉色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / MOMO-TARO /

The Story of Peach-boy

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

MOMOTARO / The Story of Peach-Boy

(巻首題) MOMOTARO

(広告) Hokusendo's Japanese Fairy Tales / Momotaro

法量：十六・〇(寸) × 十一・八(寸)

丁数：十九丁(扉二丁、本文十六丁、折り込み挿絵〈二十六―二十七

頁間〉一葉、広告二丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所藏：大阪国際児童文学館 (請求記号：001\_ABB / 1243 /)

備考：表紙の題簽に蔵書印(高野)あり。

㊦ The Jewel Spring

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四〇目綴

表紙：原装 別表紙 縹色の雲龍紙に銀砂子 無染色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / The Jewel Spring /

Tama-no-i

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

THE JEWEL SPRING / Tama-no-i

(巻首題) THE JEWEL SPRING

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

The Jewel Spring

法量：十六・二(寸) × 十一・九(寸)

丁数：二十二丁(扉一丁、本文二十丁、折り込み挿絵〈二十六―二十

七頁間〉一葉、広告二丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：架蔵

㊧ The Crab's Revenge

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四〇目綴

表紙：原装 別表紙 丹色の雲龍紙に銀砂子 無染色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / The Crab's Revenge /

Saru-Kani Kassen

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

THE CRAB'S REVENGE / Saru-Kani Kassen

(巻首題) THE CRAB'S REVENGE

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

The Crab's Revenge

法量：十六・一(寸) × 十一・八(寸)

丁数：十九丁(扉一丁、本文十六・五丁、折り込み挿絵〈三十二―三

十三頁間〉一葉、広告半丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：架蔵

四 THE MIRROR OF MATSUYAMA

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四つ目綴

表紙：原装 別表紙 薄紅色の雲龍紙 無染色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / The Mirror of Matsuyama

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

THE MIRROR OF MATSUYAMA

(巻首題) THE MIRROR OF MATSUYAMA

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

The Mirror of Matsuyama

法量：十六・二(寸) × 十一・八(寸)

丁数：十七丁(扉二丁、本文十五丁、折り込み挿絵〈六一七頁間〉一

葉、広告二丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：架蔵

五 The Old Man Who Made Trees to Blossom

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四つ目綴

表紙：原装 別表紙 薄墨色の雲龍紙 赤朽葉色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale /

The Old Man Who Made Trees to Blossom /

Hana-saka Jiji

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

The Old Man Who Made Trees to Blossom /

Hana-saka Jiji

(巻首題) THE OLD MAN WHO MADE TREES TO BLOSSOM

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

The Old Man Who Made Trees to Blossom

法量：十六・二(寸) × 十一・九(寸)

丁数：十九丁(扉二丁、本文十七丁、折り込み挿絵〈二六六―二十七

頁間〉一葉、広告二丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：架蔵

㊦ The Goblin Mountain

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四〇目綴

表紙：原装 別表紙 瓶覗色の雲龍紙 無染色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / The Goblin Mountain /

Oye-yama

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

THE Goblin Mountain / Oye-yama

(巻首題) THE GOBLIN MOUNTAIN

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

The Goblin Mountain

法量：十六・一(片) × 十一・八(片)

丁数：二十丁(扉一丁、本文十七丁、折り込み挿絵(二十二―二十三

頁間)一葉、広告一丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：大阪国際児童文学館 (請求記号：001\_ABB / 1246 /)

㊧ The Tongue-Cut Sparrow

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四〇目綴

表紙：原装 別表紙 松葉色の雲龍紙に銀砂子 無染色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / The Tongue-Cut Sparrow /

Shita-kiri Suzume

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

The Tongue-Cut Sparrow / Shita-kiri Suzume

(巻首題) THE TONGUE-CUT SPARROW

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

The Tongue-cut Sparrow

法量：十六・一(片) × 十一・九(片)

丁数：十六丁(扉一丁、本文十三・五丁、折り込み挿絵(二十一―十三

頁間)一葉、広告半丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：同志社大学図書館 (請求記号：388.11957617)

備考：扉に蔵書印(同志社大学図書館蔵書印)あり。扉裏に受け入れ

登録印 (368.1 I (v.7) / 昭和13年8月22日 / 購入丸善株式會社  
京都支部 / 番号78859) あり。三頁・十三頁・折り込み頁右下に  
同志社徽章の印あり。

四 Tawara Toda Hidesato

残存状況・扉欠

装訂：原裝 袋綴裝 四〇目綴

表紙：原裝 別表紙 水浅葱色の雲竜紙に銀砂子 無染色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / Tawara Toda Hidesato /

Hidesato of the Rice Bale

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(巻首題) TAWARA TODA HIDE SATO

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

Tawara Toda Hidesato

法量：十六・〇 (ナセ) × 十一・七 (ナセ)

丁数：十四丁 (本文十二丁、折り込み挿絵〈十八―十九頁間〉一葉、

広告一丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所藏：架藏

五 Do Nothing-Taro

残存状況：完本

装訂：原裝 袋綴裝 四〇目綴

表紙：原裝 別表紙 枯色の雲龍紙 縹色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / Do Nothing TARO /

Monogusa Taro

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

Do Nothing-Taro / Monogusa-Taro

(巻首題) DO-NOTHING-TARO

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

Do Nothing Taro

法量：十六・一 (ナセ) × 十一・八 (ナセ)

丁数：十五丁 (扉一丁、本文十二・五丁、折り込み挿絵〈八―九頁間〉

一葉、広告半丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：架蔵

㊦ The Tea-Kettle of Good Luck

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四〇目綴

表紙：原装 別表紙 茶鼠色の表紙に無染色の題簽

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / The Tea-Kettle of Good Luck /

Bun-Buku Chagama

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

THE TEA-KETTLE OF GOOD-LUCK /

Bun-Buku Chagama

(巻首題) THE TEA-KETTLE OF GOOD LUCK

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

The Tea-kettle of Good Luck

法量：十六・一 (寸) × 十一・八 (寸)

丁数：十三丁 (扉一丁、本文十一・五丁、折り込み挿絵〈十八―十九

頁間〉一葉、広告半丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：大阪国際児童文学館 (請求記号：001\_ABB / 2725 /)

㊦ The Story of Kachi-Kachi Yama

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四〇目綴

表紙：原装 別表紙

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale / The Story of KACHI-KACHI YAMA

内題：(見返し題) 巖谷小波 / 日本お伽噺叢書 / 全十二冊

(扉題) Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales /

The Story of Kachi-Kachi Yama

(巻首題) KACHI-KACHI YAMA

(広告) Hokuseido's Japanese Fairy Tales /

The Story of Kachi-Kachi Yama

法量：十六・一 (寸) × 十一・八 (寸)

丁数：十五丁 (扉一丁、本文十二丁、折り込み挿絵〈二十二―二十三

間頁〉一葉、広告一丁)

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷 / 昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬 / 東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所 / 東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：大阪国際児童文学館（請求記号：001\_ABB/2432）

〔十二〕The Old Man with the Wen

残存状況：完本

装訂：原装 袋綴装 四〇目綴

表紙：原装 別表紙

見返し：別紙 多色刷

外題：A Japanese Fairy Tale／

The Old Man with the Wen／Kobu-tori

内題：（見返し題）巖谷小波／日本お伽噺叢書／全十二冊

（扉題）Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales／

The Old Man with the Wen／Kobu-tori

（巻首題）THE OLD MAN WITH THE WEN

（広告）Hokuseido's Japanese Fairy Tales／

The Old Man with the Wen

法量：十六・一（ナゼン）×十一・九（ナゼン）

丁数：十三丁（扉二丁、本文十丁、折り込み挿絵〈十一頁間〉一

葉、広告一丁）

本文：英字 黒の単色刷

奥付：昭和十三年八月八日印刷／昭和十三年八月十二日發行

原作者 巖谷小波

編輯兼發行者 中土義敬／東京市神田區錦町三ノ十二

印刷所 北星堂印刷所／東京市神田區錦町三ノ十三

所蔵：同志社大学図書館（請求記号：388.119576112）

備考：扉に蔵書印（同志社大学図書館蔵書印）あり。扉裏に受け入れ

登録印（368.1 I (v.12)）／昭和13年8月22日／購入丸善株式會

社京都支部／番号78864）あり。三頁・十三頁・折り込み頁右下

に同志社徽章の印あり。

なお、参考として本稿末尾の図1～図5には、特別版十二編のうち、

『Tawara Toda Hidesato』の写真（表紙・見返し・折り込み挿絵・裏表

紙見返し・裏表紙）を掲載している。

特別版の装訂は四つ目綴じの袋綴装である。通常、袋綴装の書物は右

側を糸で綴じるが、北星堂版日本昔話は本文が横書きの英文であるため、

左側を糸で綴じる。法量は縦十六・〇（ナゼン）×横十一・八（ナゼン）ほど。

表紙・裏表紙には染色した雲竜紙が用いられており、表紙の中央には

刷題簽が貼り付けられている。題簽には横書きのアルファベット活字で、

叢書名・タイトル・副題・出版社名が印字される。なお、表紙・題簽の

配色は、編毎に異なる。

見返し・裏表紙見返しは十二編共通のものであり、いずれも多色刷で

ある。見返しには、二枚の扇面・二羽の雀・犬張子・狸・毬・法珠・兎・

羽子板が描かれており、朱色・黄色・黄緑色・茶色・灰色・黄土色・深

緑・水色の八色を以て彩色されている。上部に描かれた二枚の扇面のう

ち、一方には「巖谷小波 日本お伽叢書 全十二冊」と記され、もう一方

には桃の絵とともに「東京 北星堂發行」の文字が記されている。

裏表紙見返しには、二匹の蜂・瓢箪・矢・漆塗りの盃・茶筌・茶碗が



描かれており、黄色・茶色・灰色・朱色・深緑の五色を以て彩色される。上部には方形の枠が二つ、重なる位置に描かれている。一方には「版權所有 不許複製」と印字されており、もう一方には奥付が貼付されている。

奥付には縦書きの日本語で印刷日・発行日・原作者・編集兼発行者・印刷者が印字されている。奥付によると、特別版の印刷日は「昭和十三年八月八日」、すなわち一九三八年八月八日であり、発行日は「昭和十三年八月十二日」、すなわち一九三八年八月十二日である。原作者は「巖谷小波」とある。巖谷小波（いわや さざなみ）（一八七〇—一九三三）は、明治から昭和にかけて活動した児童文学者である。同氏は明治二十七年（一八九四）から明治二十九年（一九〇六）にかけて、『日本昔噺』二十四編を編纂し、博文館から出版した。原作者を巖谷小波とすることから、北星堂版日本昔話の原作はこの巖谷小波編『日本昔噺』であると考えられる。

特別版の内容は扉・本文・広告で構成される。本文はすべて横書きの英文で、橙色の匡郭の中に印字されている。また本文はすべて単色刷であるが、一編につき一葉、多色刷の挿絵が折り込まれている。北星堂の広告によると、英文を印字するにあたって用いた活字はニューヨークから入手した欧米最新のものである。なお、参照した広告については後章の「三一 一九三〇年代における北星堂の出版事業」にて詳述する。

各編の巻末に収録された本書の広告には、十二編のタイトルとともに、「Price: Each vol. 50cents in U.S.A. 2s. in Europe」つまり定価は一冊あたり五十セント、もしくは二シリングであると記されている。欧米通貨での定価が示されていることから、本書が欧米での販売を想定して出版された書物であると分かる。

特別版の書誌情報は、北星堂が発行する広告からも知ることができる。北星堂は、特別版を出版する一ヶ月前に、自社が刊行する英字新聞『The Pole Star Monthly』<sup>①</sup>の一面に、予告を掲載した。予告には全十二編の表紙を映した写真とともに、叢書名・冊数・価格・各編のタイトルが記されている。予告において定価は「Each vol. 50 cents in U. S. A.」[2s. in Europe]「日本定価各冊八拾銭」と記されており、やはり日本国内での販売を想定していたことが分かる。

また、昭和十四年度（一九三九）の北星堂出版目録<sup>②</sup>を見ると、特別版の装訂は「和綴美本」、価格は一冊あたり八十銭、送料は三銭と記されている。同目録には広告も収録されており、こちらには「各日本画挿絵入・別漉純日本紙印刷・和綴製本」等の書誌に関する情報とともに、次のような紹介文が記されている。なお、引用に際して、原文にて旧字体で表記される箇所は、『日本昔噺』等の書名に含まれるものを除き、原則として新字体に改める（以降の引用に関しても同様）。

本書は日本のグリムと称せられた巖谷小波が改作された『日本昔噺』を知名な英国人によりて英訳されたもので日本国民性を教ふるに外人への贈物としては勿論、中学、女学校二年制位の読物として最も喜ばれるものであります。

以上で、特別版の装訂、ならびに北星堂による予告・広告から、特別版の書誌情報を確認した。北星堂版日本昔話の特別版は「和綴美本」、すなわち近世以前の日本で出版された書物の形態を模した美しい書物とし

て出版された。本文はすべて横書きの英字であり、印刷には欧米式の最新のアルフアベット活字が使用されている。つまり、本書は日本の伝統的な製本技術と、欧米式の最新の印刷技術とを組み合わせ作成された書物であると言える。そして北星堂は、外国人に対して「日本国民性を教」えるための書物として、本書を日本国内外にて販売した。

## 二 原作・底本の違い

北星堂版日本昔話は巖谷小波編『日本昔噺』を原作とする。しかし『日本昔噺』の本文が和文であるのに対して、北星堂版日本昔話の本文は英文である。ゆえに、北星堂は出版に際して、巖谷小波が撰述した『日本昔噺』を原作とし、同書に英文を加えた『Twaya's Fairy Tales of Old Japan (和英對譯日本昔噺)』を底本とした。底本については、普及版に収録された「Publisher's Note」に記述を確認できる。これによると、北星堂版日本昔話は、大正三年（一九一四）に出版された『日本昔噺』の英訳本をもとに、G. Carter が校訂を施したものであるという<sup>③</sup>。出版年が一致することから、底本は富田文陽堂から出版された『Twaya's Fairy Tales of Old Japan (和英對譯日本昔噺)』再版であると判断できる。ここで、これら原作・底本についても概略を述べ、書誌情報を示す。

原作『日本昔噺』は、明治二十七年（一八九四）から明治二十九年（一八九六）にかけて、博文館から出版された全二十四編の叢書である。各編のタイトルは第一編から順に次の通りである。

『桃太郎』『玉の井』『猿蟹合戦』『松山鏡』『花咲翁』

『大江山』『舌切雀』『俵藤太』『かちかち山』『瘤取り』  
『物臭太郎』『文福茶釜』『八頭の大蛇』『兎と鰐』『羅生門』  
『猿と海月』『安達ヶ原』『浦島太郎』『一寸法師』『金太郎』  
『雲雀山』『猫の草紙』『牛若丸』『鼠の嫁入り』

『日本昔噺』の判型は菊判であり、装訂は針金平綴じの包背装である。表紙は多色刷の絵表紙で、叢書名や書名は表紙に直接刷られる。本文と裏表紙は黒の単色刷である。なお、裏表紙には奥付や博文館の広告などが印刷されている。参考として本稿末尾の図6～図8には、『日本昔噺』の第八編『俵藤太』の写真（表紙・挿絵・裏表紙）を掲載している。

『日本昔噺』は、当時の有力出版社であった博文館から出版されたこともあり、出版開始以降、日本全国に広く普及した。『日本昔噺』について、童話研究者である蘆谷蘆村氏は、一九三四年に「小波先生のプロフィール」<sup>④</sup>と題した文章を発表し、「これによつて日本童話の模範的テキストが出来たのである。日本の伝来の童話に、一つの規準と体系を与へたことに於て、この編述に最も意義深きものがあると思ふ」と述べている。また、児童文学研究者である木村小舟氏は、一九四二年出版の著書『児童文学史 明治篇』<sup>⑤</sup>において、「『日本昔噺』の出現は、我児童文化史上の一部分に、最も偉大にして、画期的なる効果を齎したものと評し、「完好に過ぎ『昔話の定本』を得たることは、国家教育の上より見るも大なる幸福としなければならぬ」と述べている。北星堂版日本昔話が発版される昭和前期において、『日本昔噺』は日本に伝わる昔話の定本として認識されていたと考えられる。

底本『Twaya's Fairy Tales of Old Japan (和英對譯日本昔噺)』（以

下、『和英對譯日本昔噺』と称する)は、『日本昔噺』第一編から第十二編までの本文に、校訂・英訳を施して和英対訳化したものである。和文の校訂は巖谷小波が担い、英訳はリデル(Hannah Ridell)、グリーン(Fanny Bradley Greene)・ロルコー(M. E. Kirby)・ンントン(E. T.)らが担当した。

各編のタイトルは、第一編から順に次の通りである。なお、タイトルの記載にあたっては、英文部の扉に記された英題(副題は省略)を参照し、括弧内には和文部の巻首題を示した。

- 『MOMOTARO』(桃太郎)
- 『TAMANOU』(玉の井)
- 『THE CANCERIAN-SIMIAN WAR』(猿蟹合戦)
- 『THE MIRROR OF MATSUYAMA』(松山鑑)
- 『OLD MAN FLOWER-BROWER』(花咲爺)
- 『THE TONGUE-CUT SPARROW』(舌切雀)
- 『THE STORY OF KACHI-KACHI YAMA』(かちかち山)
- 『THE GOBLIN MOUNTAIN』(大江山)
- 『TAWARA TODA HIDESATO』(俵藤太)
- 『THE OLD MAN WITH THE WEN』(瘤取り)
- 『DO-NOTHING-TARO』(物臭太郎)

『THE TEAKETTLE OF GOOD-LUCK』(文福茶釜)

初版は英学新報社・東京堂・博文館の協同で、明治三十六年(一九〇

三)から明治三十七年(一九〇四)にかけて出版された。そして、初版の出版から十年を経た大正三年(一九一四)には、版權を譲り受けた富

田文陽堂から再版が出版されている。

『和英對譯日本昔噺』の装訂は、針金平綴しの包背装である。初版の判型は『日本昔噺』と同じ菊判であるが、再版は四六判で出版されている。表紙・裏表紙はともに絵表紙である。第一編から第十一編までの表紙、および第十二編裏表紙の図案は、『日本昔噺』の表紙を基とし、第一編から第十一編までの裏表紙、および第十二編表紙の図案は、『和英對譯日本昔噺』の出版に際して新たに作成されている。初版は表紙・裏表紙とも多色刷の絵表紙であるが、再版は裏表紙のみ多色刷で、表紙は単色刷となっている。本文は初版・再版ともに単色刷である。なお、本文中の挿絵は『日本昔噺』と同じものである。参考として本稿末尾の図9～図11には、『和英對譯日本昔噺』の第九編『Tawara Toda Hidesato』の写真(表紙・扉・裏表紙(英文表紙))を掲載している。

以上に示す通り、原作・底本はいずれも近代の日本で出版された叢書であり、装訂は針金を用いた並製本、すなわち洋装本である。表紙に題簽はなく、書名は表紙に直接印字されている。また、見返しは白紙であり、本文は匡郭・挿絵も含めてすべて黒の単色刷である。原作・底本との比較から、巖谷北星堂本の装訂は、北星堂が独自に考案したものであると分かる。

### 三 一九三〇年代における北星堂の出版事業

では、特別版の出版元である北星堂はどのような書物を手掛ける出版社であったのか、その概要と特色とを確認する。

北星堂は、大正四年（一九一五）に中土義敬（一八八九—一九四五）によって創業された出版社である。創業当初の北星堂は、主に英語の受験参考書を取り扱う出版社として、『ユース・オヴ・ライフ講義』を始めとする『北星堂講義叢書』や『英文藻鹽草』などの英語教材を出版した。また、創業から五年を経た大正九年（一九二〇）には、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）の著作集『小泉八雲文集』の出版を開始する。その他、大正十一年（一九二二）出版の倉田百三著・グレン・ショー訳『出家と其弟子』、大正十四年（一九二五）出版の菊池寛著・グレン・ショー訳『藤十郎の戀』といった、日本文学作品の英訳出版も手掛けた。

北星堂の出版物がもつ特色について、北星堂が昭和九年度（一九三四）に発行した北星堂出版目録<sup>⑤</sup>では、次のように説明されている。

#### ◆定評ある北星堂本の特色◆

一、活字及印刷の美麗 活字は総て欧米最新のものを紐育より多大の費用を投じて購入した他に類なきものであります、従つて活字の不揃や不鮮明、凹凸等の事は絶対ありません。北星堂本の包紙や扉の体裁を御覧になつても分りますがごとことなく感じが良くアカ抜けて居る事を発見されませう。様々の形の文字、例へば漢字の明朝形と清朝形を混り混りに列べたやうな不体裁なものは決して無いのであります。其上インキは最も優秀なる品を用いて居りますから印刷の鮮明優美さに於ては断然他の追隨を許さぬ所であります。

一、用紙の優良 弊堂は多年の経験により北星堂別漉の最上級品を使用して居ります。

一、製本の堅牢 クロースは弊堂別製の優良品を用い、形、綴方等は弊堂独得の方法により、外見ばかりでなく、目に見えぬ所のポール、糸、綴目の布に至るまで最善の注意を払ひ費用と労力を惜しまず入念に製本して居ります。

一、定価の低廉 真に実質其ものに多大の費用を払ひ、最高級の品のみ使用して居りますが、一方無意味なる宣伝費等は之を省き、出来得る限り読者の負担を軽からしめんがために定価を最も低廉にして居ることは既に北星堂本を一度手にされた方は充分お認めになつて居る所であります。

ここに記された内容からは、北星堂が優れた活字印刷技術と質の良い装訂とを、自社の特色としていたことが分かる。

また、昭和三年度（一九二八）の北星堂出版目録には「直接売捌所」<sup>⑥</sup>として日本国内の二十八書店の他にロンドン（Luzac & Co. Stoneham, Ltd. Australian Book Co.）、アメリカ（Methodist Book Concern, Newbegin's）、中国（Edward Evans & Sons, Ltd.）の七書店が紹介されておられ、少なくともこの時点で、北星堂の出版物が日本国外においても販売されていたことが分かる。<sup>⑦</sup> 日本国外の「直接売捌所」は、昭和四年（一九二九）<sup>⑧</sup>に三書店、昭和五年（一九三〇）<sup>⑨</sup>から昭和八年（一九三三）<sup>⑩</sup>にかけては十三書店、昭和九年（一九三四）<sup>⑪</sup>に五書店が紹介される。このように、北星堂は欧米式の優れた活字印刷技術や質の良い装訂を自社の特色として打ち出し、欧米諸国でも販路を確保する出版社であった。しかし、「幣堂独得の方法」によって製本されるという北星堂本の中

でも、和装本として出版された書物はごく少数に限られる。

昭和十四年度（一九三九）<sup>⑪</sup>の出版目録を確認すると、目録に紹介される三七九点の出版物のうち、「和綴」と記されるものは『Dolls on Display（日本雛人形）』、『Shadows on the Shoji（障子の影）』、『Cha-no-yu（茶の湯）』、『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales（日本お伽叢書）』の四点のみである。これらはいずれも日本の文化や生活に関する書物であり、一九三〇年代に出版されている。また、いずれも北星堂目録において「日本及極東関係書其他」に分類される点で共通する。

「日本及極東関係書其他」という項目については、昭和十一年度（一九三六）の北星堂出版目録<sup>⑫</sup>に、その説明を確認できる。目録によれば、「日本及極東関係書其他」は、「我国の文化を海外に紹介」するために出版された、「小泉八雲の各書を始め現代日本の代表的小説或は劇、最近に於いては我国の風俗、習慣或は政治外交に関する各書」を指す。

北星堂が出版する和装本がすべて「日本及極東関係書其他」に分類されているという事実には、北星堂にとって和装本の出版が、日本国外に對する日本文化紹介を目的とする事業であったことを読み取れる。

最新の活字印刷技術を特色としていた北星堂が、一九三〇年代に入つて、あえて和装本の出版を手掛けるに至つた理由は何か。一九三三年度の北星堂出版目録に掲載された「北星堂本の使命について」という文章に、その一端を窺い知ることができる。<sup>⑬</sup>以下に全文を引用する。なお、引用中の傍線は引用者によるものである。

北星堂本の使命に就いて

#### ▲非常時日本と北星堂本▼

弊堂は内にありては学界のために良英語教科書と良参考書の發行に努め、また外に向つては日本文化紹介書の發行に努力して参りましたところ幸に内地は勿論、世界各国に於て北星堂本に對する信用が著しく高まりいづれも非常なセンセーションを捲き起し、諸外国の新聞、雑誌は筆を揃へて賞讃の辞を掲げて居ります。これは独り弊堂のみに関する小事でなく、邦家のために慶賀に堪えないことと存じます。

最近カナダの或る夕刊紙は次の様な批評を掲げて居ります、『東京北星堂は書物を通じて國際的に動いて居る、今度出版された最も美しいケージャ著「日本雛人形」は日本特有の國民的美風を知るに有益な本であつて我国の子供達がこの本に挿入してある精密な人形の写真を見たならばかかる美しい人形を友として居る日本の子供達を羨しく思ふであらう。また同店から出版したシャーラー博士著「滿州国」は近々過去二ヶ年の中に非常な變化を來たした滿州国を知るに最も興味ある有益な本である』と云ひ。また独逸の雑誌では『北星堂發行の「滿州国」は吾々歐羅巴人として最近の滿州国を研究するに有益な小冊子だ』と。其他ニューヨーク・タイムスは弊堂發行の「日本雛人形」を半頁にわたる大写真を以て紹介し、米國ニューヨーク・オルレアズの新報は「北星堂が書物によりてアメリカと日本とを友情的に橋渡しをして居る」と述べ、又英國のオヴザーバーは「東京北星堂の優れたる技術的出版物に對し賞賛の辞が与へられなければならぬ、同店の優れた技巧は一層ハーンの作品を人氣ある立派な

ものとして居る」と賞賛の辞を述べて居ります。更に本年一月六日ワシントン・ポスト紙は荒木前陸相の談話として「日本の将来は赫々たるものあり、日本は極東に於て其勢力を行使し、東西文明を結合せしめ以て世界救済の神聖なる使命に乗り出すべく運命を荷負つて居る」と述べたる点に關し当初疑惑の眼を以て日本の帝國主義政策の実現なりとして社説（ワシントン・ポスト）中に於て難詰したものであるが今東京北星堂発行のボードレー少佐著「伸び行く日本」を読むに及んで日本の使命なる言葉が極東に低迷する暗雲一掃を企図せるものに他ならざると知りて今までの疑惑を氷解し得たと論じて居ります。

以上の如く出版物が如何に國際的に大なる影響を及ぼすかを觀ましたならば吾人の責任も亦重大なることを痛切に感ずる次第で御座います。

冒頭に記される「非常時」という言葉は、満州事變の勃發以降、太平洋戦争へと向かう日本において頻繁に使用された表現である。

日本は、昭和六年（一九三一）の満州事變をきっかけとして、昭和八年（一九三三）八月に國際連盟を脱退した。連盟国としての地位を失つた日本は、國際社会での發言力を失い、次第に孤立を深めていく。

「北星堂本の使命に就いて」には、北星堂が出版した「日本文化紹介書」に対して、欧米諸国から寄せられた批評が列挙される。批評のなかには掲載紙名が明記されないものも含まれているが、『ワシントン・ポスト』に掲載されたという文章については原文を特定できる。

**No End of Books**

By Theodore Hall.

**Laurels for Japan.**

The leading editorial in yesterday's Post made the sprightly and yet serious comment that it was to be hoped Japan's "dog year" would not coincide with China's "cat year."

For the report had come that Japan considers 1934 a "dog year," which, in the words of the war minister, Gen. Sadao Araki, means "smooth sailing in all affairs."

The general went on: "The future of Japan, therefore, is bright. The empire is destined to exercise influence in the Far East, to weld the civilization of the Orient and Occident, and to launch upon a holy mission to bring the salvation of the world."

Frankly, those words have an ominous ring in Western ears, shown by the very emphasis which the editorial writer gave to the words "holy mission." But Gen. Araki is only the unwitting cause of the twinge we feel. For somehow, deep in Western blood and bone, is a memory which goes back exactly 1,202 years, to the day when Charles Martel, on the field of Tours, flung back the sons of Mahomet engaged on that most dreaded of "holy missions"—a holy war.

No, "holy mission" is not a happy phrase to use on the Western mind. But did Gen. Araki mean that? Can we, from our crucial difference of background, understand what the Japanese mind intends?

\* \* \* \*

A book has just arrived from the Hokuseido Press in Tokyo which should help us to avoid the blunder of judging the east by western standards. "A Japanese Omelette: A British Writer's Impressions on (sic) the Japanese Empire," (\$1.80), by Maj. R. V. C. Bodley, is itself somewhat blundering, somewhat wandering. But two or three points are very definitely stressed, points which must be of value to us. Maj. Bodley's book should help us to see pretty clearly that what Gen. Araki meant by his phrase was no more than a crusade against those dangers of chaos which hover over the East. That possible solution is another matter.

[No End of Books]  
[Washington Post]  
1934年1月6日, p.9  
◀ 記事冒頭  
▼ 記事末尾

"The Russian peril," he says, "no one can visualize until, as I, they have traveled in the interior of China and been in the midst of its seething population, or come in contact with its hordes of ill-disciplined soldiery—who, if led and organized, could do what they liked with the rest of the world." And for this service Japan should have the thanks of the world and not its rebukes.

原文は、一九三四年一月六日に掲載された「No End of Books」である。<sup>15</sup> 原文の冒頭には、荒木貞夫前陸相（一八七七一—一九六六）が使用した「holy mission（神聖なる使命）」という言葉について、西洋においては二〇二年前、すなわち七三二年に起きたカール・マルテルとイスラム教徒との戦い（トゥール・ポワティエの戦い）を想起させる言葉であり、良い印象を与えないと記されている。つづけて、荒木前陸相の用いた「holy mission」という語は、西洋とは異なる背景を持つ日本人の感覚によって発せられたものであると説明する。そして、「A book has just arrived from the Hokuseido Press in Tokyo which should help us to avoid the blunder of judging the east by western standards.」つまり東洋での考えを知るために役立つ本として、北星堂が出版するボードレー著『A Japanese Omelette（伸び行く日本）』を紹介している。

国外紙に掲載されたという批評と、「出版物が如何に国際的に大なる影響を及ぼすかを観ましたならば吾人の責任も亦重大なることを痛切に感ずる次第で御座います」という一文からは、日本の「非常時」に直面した北星堂が、欧米諸国へ向けた「日本文化紹介書」の出版を、自社の使命と認識していたことが分かる。

さらに、昭和十年（一九三五）出版の『現代出版業大鑑』には、北星堂、およびその創設者である中土義敬の活動が次のように紹介される。<sup>16</sup>

更に昭和七年満州国の建国と共に吾日本が全世界注目の的となるや、米国加州工大総長シエラー博士の著「日本は何處へ」、「満州國」其を出版して現代日本と時局の真相を海外に紹介し、続いて英国ボ

ードレー少佐の「伸び行く日本」を出版、国際連盟委員及び欧米人の誤れる認識を正して南洋委任統治問題を始めとし日本の正しい立場を理解せしめる上に貢献せし所少なからず、更に日本産業の驚異的進展を詳述したシヤラー博士の「躍進の日本」、ボードレー氏の「濤騒ぐ太平洋」、又真の日本国民性の美風を海外人に知らしむべく英吉利王室地理学会員ケージャー教授の筆に成れる美本「日本離人形」を出版して世界十三ヶ国の新聞雑誌を賑はし、其の他多数の英文書を発行着々氏の念願を果すと共に一層北星堂の名を海外に知らしめた。（中略）

氏（引用者注：中土義敬）は亦出版のみならず、著名外人に或は人形を贈り、或は私費を投じて送別会を催し、以て其親善に努め、又日米親善の実を挙げるには第二国民たる学生をして真の日本を理解せしむるにありとて、米国の学生に多数の日本紹介書を贈るなど、出版と共に国民外交の一端を實行しつつあり従つて一個人出版者として国際的出版に対する氏の確乎たる信念と共に、真面目なる人格は、内外知名人士の信用を益々厚からしめている。

『現代出版業大鑑』に記された内容からは、当時の日本において、欧米諸国からの反発は「国際連盟委員及び欧米人の誤れる認識」によって生じたものであり、北星堂の出版物は「日本の正しい立場」「日本産業の驚異的進展」「真の日本国民性の美風」を伝えることで、そうした認識を正すものであると捉えられていたことを読み取れる。

当時の日本において、欧米諸国に向けて日本文化を紹介する活動は、

官民を挙げて取り組むべき国策事業として推進されていた。昭和九年（一九三四）には、欧米諸国へ向けた日本文化の紹介を目的として、外務省の外郭団体・国際文化振興会が設立される。国際文化振興会の活動については、すでに別稿にて触れているため、ここでは割愛する<sup>⑦</sup>。国際文化振興会が設立されると、北星堂は三省堂・教文館・丸善ら民間出版社社とともに同会の活動に参加し、書物の輸出入を斡旋したという<sup>⑧</sup>。

北星堂が国際文化振興会の活動に参加した翌年、昭和十年（一九三五）には、北星堂の出版物が、国際文化振興会を介して当時のスペイン大統領に贈呈されている。この出来事について、一九三五年一月二十一日の『東京日日新聞』には、次のような記事が掲載されている<sup>⑨</sup>。

◇：外務省の国際文化協会（引用者注：国際文化振興会を指す）では今度スペイン大統領に小泉八雲全集を贈ることになった

◇：昨秋マドリッドに開かれた国際博物館会議に出席した東京科学博物館の丸尾忠雄氏がザモラ大統領のレセプションに招聘された時、大統領はハーソンの熱心な愛読者だといふ話が出た

◇：日本に帰つたらその著作を贈りませうといふ約束までして帰つたがこれを聞いた同会ではその著作を通じて日本を知つてもらふとともに進歩したわが印刷技術を示す絶好のチャンスとばかり、早速英語の全集を買ひ集めて送ることになった。一石二鳥の贈りものはこれは

記事の内容からは、「日本を知つてもらふとともに進歩したわが印刷技

術を示す」資料として「小泉八雲全集」が贈呈されたことが分かる。この記事の中で、「小泉八雲全集」の出版元は明示されていない。しかし、北星堂は『The Pole Star Monthly』の編集後記でこの記事に触れ、贈呈された書物は北星堂が出版したものであったと説明している<sup>⑩</sup>。

附録面に於て「東京日日」からの記事を転載して置いたが、北星堂のヘルン講義全集四巻、シャヤー博士の「ロマンス日の本」が国際文化振興会の手を経て西班牙大統領閣下に捧呈せられるの光栄を担つた。読者諸子と慶を共にしたいと思ふ。

こちらには、小泉八雲の全集に付け加えて「ロマンス日の本」（原文マ）を贈呈したと記されている。『ロマンスの日本』は、北星堂の目録にて「日本及極東関係書其他」に紹介される日本文化紹介書である。

北星堂は、欧米から入手した最新の活字印刷技術と、高品質な装訂を顯示し、一九二〇年代後半には日本国外での販路を確保していた。一九三四年に国際文化振興会が設立されると、北星堂は書籍の輸出入を斡旋するという形で同会に寄与する。同時に、自社の目録に「北星堂本の使命について」を掲載し、日本文化の紹介を自社の使命として打ち出した。以降、北星堂は日本文化にまつわる書籍を、日本の伝統的な製本技術を踏襲した和装本の形態で出版し始める。欧米式の活字印刷技術を誇る北星堂が、一九三〇年代に入ってあえて近代以前の和装本を模して出版した背景には、日本の伝統的な製本技術もまた、優れた技術・文化であることを欧米諸国に発信する意図があったと考えられるのである。



## おわりに

『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』特別版は、日本の伝統的な装訂様式と最新の活字印刷技術とを融合させた書物として出版された。出版をつとめた北星堂は、当時、最新の優れた活字印刷技術と質の良い装訂を自社の特色として打ち出し、日本国内に限らず、欧米諸国に対しても顕示していた。

北星堂による特別版の出版は、東アジアおよび東南アジアへの侵攻をきっかけとして、国際関係上の孤立に直面した一九三〇年代の日本の社会状況を受けて企画された。

満州事変をきっかけとして、国際連盟を脱退した当時の日本は、官民を挙げて自国の優れた文化を紹介することで、欧米諸国からの反発を緩和させようと志向した。昭和九年（一九三四）に国際文化振興会が設立されると、北星堂はこれに参加し、書物の輸出入を斡旋した。同時に、日本文化紹介書の出版を自社の使命として掲げ、欧米諸国への日本文化紹介に取り組んだ。

北星堂は昭和十三年（一九三八）に、巖谷小波編『日本昔噺』の英訳本・北星堂版日本昔話を日本の国民性を伝える書物として欧米諸国へ向けて出版する。本文の印刷には、ニューヨークから入手したという最新のアルファベット活字を用いた。一方で、装訂には近世以前の日本において出版された和装本を模した形態を採用し、挿絵や見返しに彩色を施して「純日本式」の「和綴美本」と称して販売した。

つまり、巖谷北星堂本出版の背景には、日本が欧米諸国に劣らぬ活字

印刷技術を有すること、日本の伝統的な製本技術もまた優れた技術・文化である（ここを）、欧米諸国に対して顕示しようとする意図があったと考えられる。

## 注

- ① 『The Pole Star Monthly』第十四巻第六号、北星堂、一九三八年七月
- ② 『Hokuseido's Catalogue of Middle and Higher Grade School English Text-Books 北星堂英文教科書其他目録1939』、北星堂、一九三九年
- ③ 『Publisher's note』『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales (Popular Edition)』、北星堂、一九四二年  
(原文は次の通り)  
The Stories contained in this volume were first translated from the Japanese by Miss Ume Tsuda and Mrs. Hannah Riddle and published in 1914. The English edition, however, had long since been out of print, and in 1938 we bought their copyright and republished the stories in twelve beautiful booklets under the editorship of Mr. G. Caiger. (後略)
- ④ 巖谷蘆村「小波先生のプロフィール」『童心は微笑む』、家の教育社、一九三四年、三十五―四十五頁
- ⑤ 木村小舟『少年文學史 明治編 上巻』、童話春秋社、一九四二年
- ⑥ 『Hokuseido's Catalogue of Middle and Higher Grade School English Text-Books and Others 1934』、北星堂、一九三四年
- ⑦ 『Catalogue of Hokuseido Publications with Illustrations and Specimen

- Pages 1928] 北星堂 一九二八年
- ⑧ 『Catalogue of Hokuseido Publications with Specimen Pages & Illustrations 1929』 北星堂 一九二九年
- ⑨ 『Catalogue of Hokuseido Publications with Specimen Pages and Illustrations 1930』 北星堂 一九三〇年
- 『Hokuseido's Catalogue of Middle and Higher Grade School English Text-Books, 1931』 北星堂 一九三一年
- 『Hokuseido's Catalogue of Secondary and High School and College Text-Books, Reference Books, English Literature and English Translations of Japanese Literature 1932』 北星堂 一九三二年
- 『Hokuseido's Catalogue 1933 Special Number』 北星堂 一九三三年
- ⑩ ⑥に同く
- ⑪ ②に同く
- ⑫ 『北星堂出版圖書總目錄 : The Hokuseido Publications : Books on Japan-Books on the Far East-Japanese Fiction and Plays : Secondary School, Koto-gakko and College English Text-Books Reference books, English Literature : The Works of Lafcadio Hearn etc. : 1936』 北星堂 一九三六年
- ⑬ ⑥に同く
- ⑭ 上野隆生「非常時」・「準戦時」・「戦時」:一九三〇年代日本の位相』和光大学現代人間学部紀要』九、一〇五—一二二頁、二〇一六年
- ⑮ 『No End of Books』『Washington Post』一九三四年一月六日、九頁
- ⑯ 出版タイムス社・出版通信社・出版研究所 共編『現代出版業大鑑』、現代出版業大鑑刊行会、一九三五年(『出版文化人名辞典』第三卷、日本図書センター、一九八八年に収録)
- ⑰ 「北星堂による『Iwaya Sazanami's Japanese Fairy Tales』出版とその意図について」『次世代人文社会研究』第十九号、日韓次世代学術フォーラム、八十一—九十七頁、二〇一三年
- ⑱ 丸善株式会社 編『丸善百年史』下巻、一九八一年
- ⑲ 『東京日日新聞』一九三五年一月二十一日、東京朝日新聞社、朝刊七頁
- ⑳ 『The Pole Star Monthly』第八卷第一号、北星堂一九三五年二月

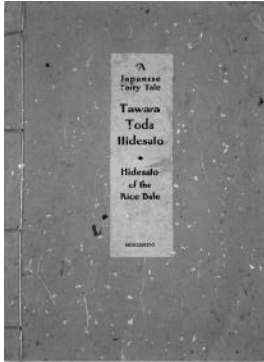


図1 特別版『Tawara Toda Hidesato』(架蔵)表紙

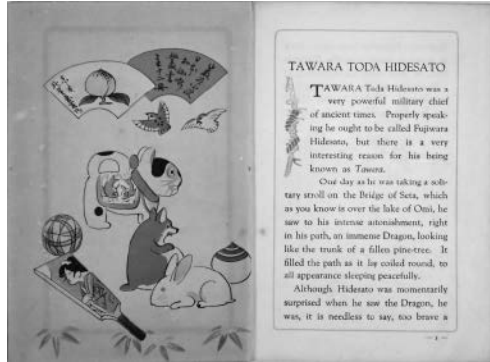


図2 特別版『Tawara Toda Hidesato』(架蔵)見返し ※架蔵本は扉を欠く



図3 特別版『Tawara Toda Hidesato』(架蔵)折り込み彩色挿絵



図4 特別版『Tawara Toda Hidesato』(架蔵)広告・裏表紙見返し

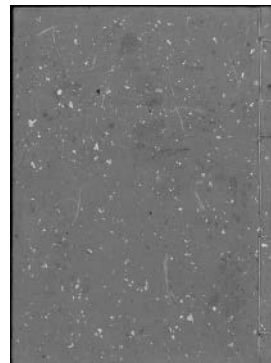


図5 特別版『Tawara Toda Hidesato』(架蔵)裏表紙



図6 原作  
『俵藤太』(架蔵)表紙



図7 原作  
『俵藤太』(架蔵)挿絵



図8 原作  
『俵藤太』(架蔵)裏表紙



図9 底本  
『TAWARA TODA  
HIDESATO』(架蔵)表紙

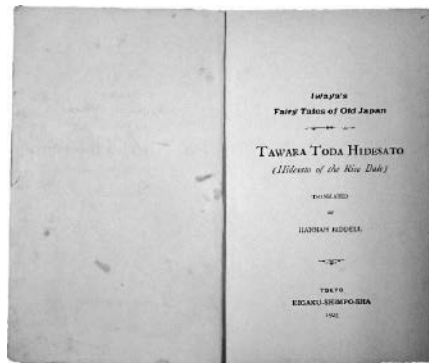


図10 底本  
『TAWARA TODA HIDESATO』(架蔵)扉



図11 底本  
『TAWARA TODA  
HIDESATO』(架蔵)裏表紙 (英文部表紙)